

## 2. 学部開放授業

授業科目名 (英文表記)	熊野祭礼学 (Kumano Ritual Studies)		
単位数	1 (学部生のみ)	授業形態	講義・演習
担当教員	吉村 旭輝		
開講	南紀熊野サテライト (田辺市)	区分	学部開放科目
実施日・時間	第1回 6月29日(日) 13:00~17:00	第3回 7月24日(木) 17:00~21:00	
	第2回 7月6日(日) 13:00~17:00		
<p><b>【授業の概要・ねらい】</b></p> <p>熊野を含む紀伊半島では、ありとあらゆる地域に祭りや祭礼が存在している。とくに熊野三山といった大寺社を有する熊野地域では三山の祭礼をはじめ、また農漁村では中世以来の地域コミュニティを主体とした祭りや江戸時代に城下町として栄えた田辺などの都市では都市祭礼として田辺祭が夏に行なわれるなど、多様な祭礼形態がみられる。</p> <p>本講では、熊野三山、農漁村、都市での熊野の祭り／祭礼を歴史的に講義で概観したうえで、近年の過疎化や少子・高齢化といった地域の現代的問題にも触れ、実際に田辺祭に参加し、実践的な民俗学として、熊野における祭礼の実態を学ぶ講義である。</p> <p><b>【授業計画】</b></p> <p>第1回 熊野三山の歴史と祭礼(座学)</p> <p>第2回 熊野地域の農漁村と都市の祭り／祭礼(座学)</p> <p>第3回 田辺祭参加(フィールドワーク)</p> <p><b>【到達目標】</b></p> <p>熊野地域の歴史を深く理解し、またそこで行なわれる祭り／祭礼との関係を深く理解し、現代における熊野の実情と向きあえるようになることが目標である。</p> <p><b>【成績評価の方法・基準(学部生のみ)】</b></p> <p>各回のミニレポート(50%)、田辺祭参加レポート(50%)※田辺祭参加の人は参加レポート、不参加の人は田辺祭について調べてレポートを書くこと。</p> <p><b>【教科書】</b></p> <p>特になし(毎回の授業で提示する。)</p> <p><b>【参考書・参考文献】</b></p> <p>芸能史研究会編(1981-90)『日本芸能史』1-7、法政大学出版局</p> <p>和歌山県教育委員会編(2012)『熊野三山民俗文化財調査報告書』</p> <p>吉村旭輝(2022)「紀伊藩御船手方と御船歌—旧藩領内の御船歌と浦組制度を中心として—」藤田達生編『歴史遺産が地域を拓く②紀伊半島の地域創生』清文堂出版</p> <p>佛光大学アジア宗教文化情報研究所編(2008)『民俗芸能の現在』など</p> <p><b>【履修上の注意・メッセージ】</b></p> <p>第1回、第2回については南紀熊野サテライト(田辺市)において授業を行います。第3回については、田辺祭に実際に参加するためJR紀伊田辺駅集合となります。また、参加できない場合は別課題の提出が必要となります。</p> <p><b>【履修する上で必要な事項】</b></p> <p>7月24日に開催される田辺祭のフィールドワーク(参加)を行なうため、それに参加できることを基本とする。(部分参加も可能)</p> <p><b>【授業時間外学修についての指示】</b></p> <p>本授業の授業計画に沿って、準備学習と復習を行なうこと。さらに、田辺祭や同地に関連する課題の調査・考察を含めて、毎回の授業ごとに自主的学習を求める。授業時間の約2倍の時間外学修を要する。</p> <p><b>【授業理解を深める方法】</b></p> <p>参考書・参考文献とあわせて受講者自身の故郷あるいは現在の居所の祭り／祭礼だけでなく、年間をとおして行なわれている年中行事も調べ、予習復習をすることが重要である。</p>			